

講師紹介 (50音順)



池ノ上真一 (いけのうえ・しんいち)

北海道大学 観光学高等研究センター 特任助教

大阪・堺出身。「技術の人間化」を理念とする芸術工学を学び、現在の専門は都市・地域計画・まちづくり。前職は特定非営利活動法人たきどろん(竹富島)、(財)日本ナショナルトラスト(東京都)と、NPO・NGO職員として文化遺産マネジメントに取り組む。沖縄・竹富島、岐阜・白川郷、東京・旧安田楠雄邸、鳴砂の浜(全国)、その他、「地域遺産」と「ヘリテージ・ツーリズム」をキーワードとした社会システムの構築等に取り組む。



清水賢一郎 (しみず・けんいちろう)

北海道大学 大学院メディア・コミュニケーション研究院 准教授

1967年生まれ。東京大学大学院(中国語・中国文学専攻)修了。博士(文学)。中国語・文化の特質をメディア論+比較史の視点から探っている。近年は《旅の時間論》についても模索中。最近のエッセイに「水という旅——生命のみなもとを遡って」(旅の文化研究所『まほら』68号)、訳書に朱天心『古都』、孫歌『竹内好という問い』等。



西川克之 (にしかわ・かつゆき)

北海道大学 大学院メディア・コミュニケーション研究院 教授

1959年小樽市生まれ。北海道大学大学院文学研究科修士課程修了。英国ウォーリック大学英国文化研究センター修士課程修了。近年は、近代以降のイギリスにおけるツーリズムの展開に関して、主に階級間格差や文化の大衆化といった観点から研究を進めている。最近の論文として「余暇と祝祭性：近代イギリスにおける大衆の余暇活動と社会統制」(『観光創造研究』第6号)。



西山徳明 (にしやま・のりあき)

北海道大学 観光学高等研究センター 教授

1961年福岡市生まれ。京都大学大学院工学研究科修士課程修了。同博士課程単位取得退学。博士(工学)。建築学/都市計画学を専門とし、歴史的集落・町並みや史跡・文化的景観等の文化財、国内外の世界遺産を含む文化遺産のマネジメント計画、観光まちづくり計画、観光開発国際協力などに関する研究を進めている。



山田義裕 (やまだ・よしひろ)

北海道大学 大学院メディア・コミュニケーション研究院 教授

1957年網走市生まれ。北海道大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。情報メディアが私たちの社会に与える影響について研究している。近年の興味は、若者のコミュニケーション様式や他者関係のあり方の変容。最近の論文に「まなざしを贈る—ポスト虚構の時代における他者との出会い—」(The Northern Review No.36-37: 2010-2011)



山村高淑 (やまむら・たかよし)

北海道大学 観光学高等研究センター 准教授 同アイヌ・先住民研究センター 兼務准教授

1971年、静岡県浜松市生まれ。北海道大学農学部卒、民間企業勤務、北京大学留学を経て東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。博士(工学)。観光庁「スクリーンツーリズム促進プロジェクト」ワーキンググループ座長、埼玉県アニメツーリズム検討委員会座長等を歴任。専門は観光開発論、文化資源デザイン論。主著に『アニメ・マンガで地域振興』(東京法令出版)など。

総合テーマ

2011年度 公開講座 ご案内

旅の記憶、 まちの記憶、 出会いの記憶

開講期間：2011年10月27日～2011年12月8日

全6回 各木曜日 18:30～20:00

後援：札幌市教育委員会

旅の記憶、まちの記憶、出会いの記憶

新たな旅の創造とそれを支える人材育成を掲げた観光学高等研究センターも、設立からはや6年。様々な都市や地域で観光まちづくりを展開しながら、ユニークな人材を輩出し続けています。今回の6回シリーズでは、デザインされた文化としての「旅」、旅が降り立つ空間としての「まち」、そしてそこで起こる様々な「出会い」、この3つのキーワードを「記憶」という切り口で解説した6通りの物語をお見せします。

受講希望の方は下記によりお申し込みください。

- 開講期間 平成23年10月27日（木）～12月8日（木）
全6回。毎週木曜日に開講。毎回、午後6時30分から午後8時まで（90分）
- 実施会場 北海道大学情報教育館（放送大学）3階 スタジオ型多目的中講義室
（札幌市北区北17条西8丁目、地下鉄南北線「北18条駅」から徒歩10～15分）
- 受講資格 満18歳以上の方であればどなたでも受講できます。
- 定 員 60人（受講希望者多数の場合は抽選により受講者を決定します。）
- 受講料 3,500円（銀行・郵便局での振込。受講が決定した方に、振込用紙を送付します。
なお、納入した受講料はお返しできません。）
- 修了証書 4回以上受講した方には、最終講義終了時に修了証書を交付します。
- 申込方法 (1) 申込期間 平成23年9月1日（木）～10月3日（木）
(2) 申込手続 郵便、FAX、Eメール、このいずれかでお申し込みください。
お申込みの際は、氏名（ふりがな）、住所、電話番号、生年月日、性別、職業、道民カレッジの受講生であるか（受講生の場合は手帳番号）をご記入ください。
(3) 申 込 先 北海道大学メディア・観光学事務部
〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目
F A X (011) 706-7801
Eメール soumu@imc.hokudai.ac.jp
（件名「公開講座申込み」とご記入ください）
- そ の 他 道民カレッジに入学されている方で、本公開講座を受講し、修了証書の交付を受けた方は、道民カレッジの単位（教養コース9単位）を取得することができます。
- 問い合わせ先 北海道大学メディア・観光学事務部電話（011）706-5115
（電話による申込みは受け付けできませんのでご了承願います）

日程	講師	テーマ及び概要
第1回 10月27日	山田義裕 教授	記憶はつくれる 今回の講座は〈記憶〉が全体を貫くキーワードになっていますが、記憶とは脳の中に蓄えられた過去の情報の集積などではなく、日々の体験を通して常に生成・変化する動的なシステムであるという考えがあります。講座第1回目は、まずこういった想起のプロセスとしての記憶について解説した上で、旅が私たちの記憶をどのように刺激し、忘れていた情景を呼び覚ましてくれるかについて考えてみましょう。
第2回 11月10日	山村高淑 准教授	「物語」が繋ぐもの ～戦国武将の新たな語られ方とコンテンツツーリズムの可能性～ 近年、長野県上田市における真田幸村や、宮城県伊達政宗や片倉小十郎といった戦国武将がゲームやアニメで描かれ、多くの若い旅行者をゆかりの地に惹きつけています。この回では、こうした動きの中で「物語」を核に生まれている人と人の繋がり方に着目し、「物語のファン」が「土地のファン」になっていくプロセスが、実は日本の庶民文化に連続と引き継がれてきた二次創作文化に位置づけられることを見て行きます。
第3回 11月17日	池ノ上真一 特任助教	札幌を観光しよう！ ～五稜星とフレンドシップのまち～ 政治、経済のセンター、そして繁華街と、さまざまな都市的機能をもつ札幌はまさに北海道の中心地です。この回では、札幌という〈まちの記憶〉に焦点を当てながら、五稜星とフレンドシップという札幌を表現する象徴的なキーワードをもとに、このまちがどのようにつくられてきたのかを読み解くことで、真に札幌を楽しむ観光とは何かを考えます。
第4回 11月24日	西山徳明 教授	「まちの記憶」の積層 ～リビングヘリテージ（生きた遺産）との出会い 遺産とは単に「過去から遺された資産」ではなく、今を生きる人間に価値を放つ「未来世代にも遺したい資産」のことです。人が暮らした「まちの記憶」の積層としての遺跡や歴史的町並み、それらの語りに耳を傾けたとき、遺産は生き生きと光を放ちはじめます。そんなリビングヘリテージとの出会いの旅に出かけませんか？
第5回 12月1日	西川克之 教授	旅の記憶を物語るとということ たとえばかつて修学旅行に出かける前に、あらかじめ「旅の思い出」などと称する先生手作りの冊子を渡された覚えがあります。ことほど左様に、旅にみやげ話は必須なのかも知れませんが、この回では、なぜ人は旅先での経験を他者に語るのかを、イギリスにいくつかの例を引きながら考えてみたいと思います。
第6回 12月8日	清水賢一郎 准教授	いま「上手に思ひ出す」ために ～能の旅から考えてみる～ かつて批評家小林秀雄は名著「無常といふ事」のなかで「上手に思ひ出す事は難しい」と書きましたが、誠にしかり。思い出すためには、何か手がかりになるものが要るようです。最終回では、旅と出会いとそのための場（まち）とが結び合った態（わざ）として、室町時代からいまに受け継がれる能の舞台に現れる旅をめぐって考えてみましょう。